

地域支援だより

令和2年9月25日

第106号

秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

# きらりNet

## 「現在の通学方法」と「卒業後の進路」

現在の通学方法は何ですか。徒歩？スクールバス？保護者の送迎？それぞれの児童生徒の今もっている力に合った通学方法を選んでいることと思います。

その中で、電車や福祉タクシーなどの公共交通機関を利用している高等部生徒や、昨年度練習に取り組んだ中学部生徒について、紹介します。

### Aさん 【電車利用での通学】

駅の構内で迷わないように、自分で目印を決めて、方向を確認しながら行動します。電車の遅れや運休、乗り過ごした場合等のトラブルへの対応方法も学習しました。立ったままで楽に定期や財布を取り出せる斜めかけのバックが重宝します。

「失敗続きになると思ったけれども、やってみたら案外自分でできました。」(Aさん談)



### Bさん 【学校（スクールバス） ⇒福祉タクシー）リハビリの病院】

スクールバスの停留所から福祉タクシーを利用し、リハビリの病院に向かいます。そこで保護者と待ち合わせます。運転手と挨拶を交わし、金具の位置を確認し合う等、円滑にコミュニケーションを取っています。



### Cさん 【路線バス・電車利用の練習】

「車椅子でも1人でできること」「手助けを必要とすること」を確認しながら、練習しました。初めに練習した最寄りの駅は、バリアフリーではなく利用するには難しいことや、次に練習したバリアフリーの駅では、車椅子でも自分で券売機を操作して切符を購入できたり、ホームへの移動はエレベーターを使うと可能であったり等、実際に体験して分かることがたくさんありました。夏休み中に何度か練習をして、自信を付けました。



現在の通学方法は、卒業後の通勤方法に直結します。今の積み重ねにしか、卒業後の姿はありません。思い描く進路先へ通う方法を具体的に想定し、現在の通学方法をそれに近づけていくことは、今からできる大切な一歩ではないでしょうか。

(文責：近江美歩)

## 中学部の作業学習について

中学部では、自分にできることを生かして「役割を果たす」「人の役に立つ」「自分の考えや気持ちを自分から伝える」等の活動を通し、周囲に認められる経験を大事に考えています。中学部1組では、週4時間、作業学習で「油グッバイ（揚げ物の後の廃油を処理するためのパック）」の製作と販売に取り組んでいます。できるだけ一人でやり通せるように、分業制にし、教師は一人一人の補助具の工夫や姿勢等、作業環境を整えることに力を入れています。また、年に2回、作業学習週間（3～5日間）を設け、終日作業学習に取り組む中で、休憩の取り方や自分の体調管理を含めた1日の過ごし方など、将来の生活をイメージする取組も行っています。



校内販売会  
「5個入り 50円です」

### 補助具等の工夫例



**パルプちぎり** 網の目を通すことで、自分で大きさを確かめながら、パルプを小さくちぎることができます。



**パルプの袋詰め** プラスチックのケースに紙パックの口を固定することで、片手でもずれずに袋詰めできるようにしています。



**ラッピング** 油グッバイの向きを整えながら、先に型紙に5個重ねて置くことで、きれいにラッピングの袋に入れることができます。

## 教育専門監のコーナー

### 《よりよく生きるためのキャリア教育》

#### 【キャリア発達を育む授業づくり】

生徒の意欲を培うには、生徒が「できる」状況をつくるのが大切。

「～ができない」ではなく、環境を整えることで、「～ができる」に変えていく。

ではどうすれば「できる」ようになるか。そこで

#### ◇授業作りのポイント

- 生徒が自分で判断できるようにして、見通しがもてる活動にする。
- 教員の働きかけを最小限にして、生徒の自発的な動きや気づきを引き出す。
- 安全や衛生に配慮した作業環境にする。
- できないことを頑張らせるのではなく、生徒が「今できること」を大切にする。
- 作業台の高さや位置を常に見直し、生徒がやりにくい場面を解消する。

（「各教科等を合わせた指導の充実」

平成27年3月東京都教育委員会発行より）

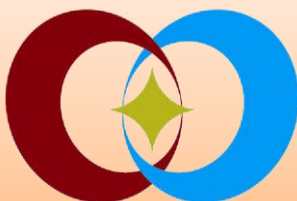
本校では、児童生徒の「やりたい」「できる」「わかる」「やった」という主体的な学びを目指し、授業づくりを進めています。

中学部では、自分が担当する工程を覚え、「自分は何ができて、何が難しいのか」「どうすればできるのか、こうしてみよう」と各自が思考し、試行できるように、『分かる、できる、自分で取り組む』という視点で授業づくりを進めています。大切にしているのは、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という、自分と他者との関係を自他共に肯定的に受け入れることで生まれる、自己に対する肯定的な評価。

生徒は、自分しかかけがえのない存在であると感じながら工程（役割）を担い、それぞれの工程（役割）に求められる責任の有り様を学びながら、各自の作業に主体的に取り組めます。

一連の作業の中で、自分で考えられる、自分で選択ができる、そして何より、自分で決められる、一人一人の「～ができる」状況作りによる、主体性とキャリア発達を育む作業学習の取組となっています。

〈文責：二階堂 悟〉



教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index>